

4 - 8 カッタについて

△ 危険

切断危険

付属の角面用カッタは、荒削り刃と、裏刃にかんな刃を取り付けた仕上削り刃に分けて、それぞれ箱入りにして機械に付属してあります。仕上しろを調整するワッシャを、荒削り刃と仕上削り刃の間に入れて、カッタ軸に取り付けて使用します。

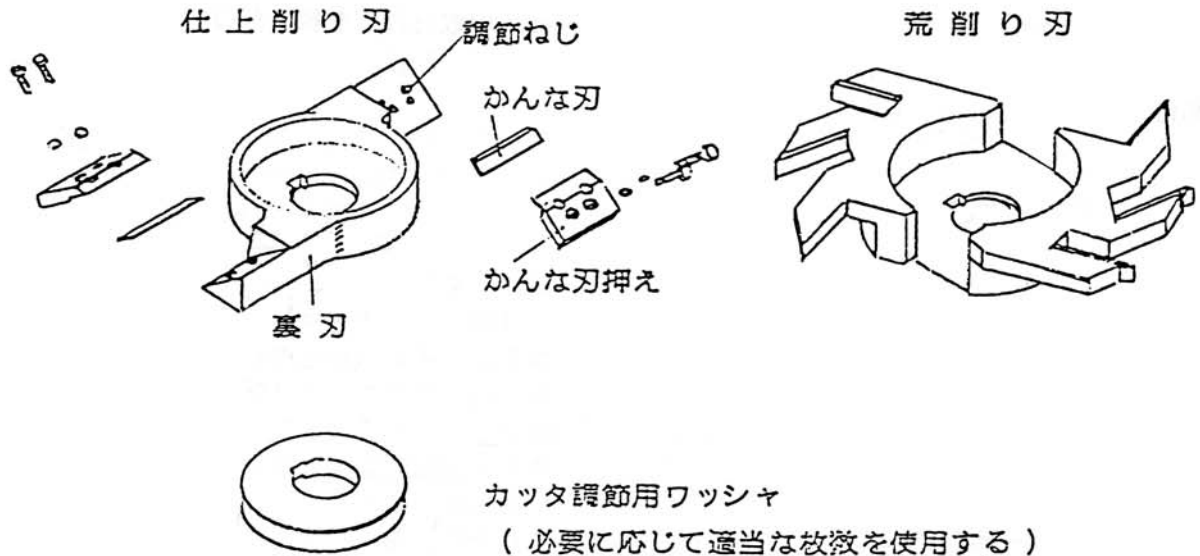


図-8

4 - 9 仕上しろの調節

あいだにワッシャを入れて組み合わせた仕上削り刃の、かんな刃の上縁と、荒削り刃の刃先の上縁との寸法差が仕上げしろになります。(かんな刃の取付けかたによって変わりますので、ワッシャの厚さだけが仕上げしろではありません。) 仕上げしろは普通 0.2mm くらいが適当ですが、逆目(さかめ)の傾向のときは、仕上げしろを多めにしたほうがきれいに仕上がります。ただし、この場合、切れ味の持続性は悪くなりますからお含みおきください。

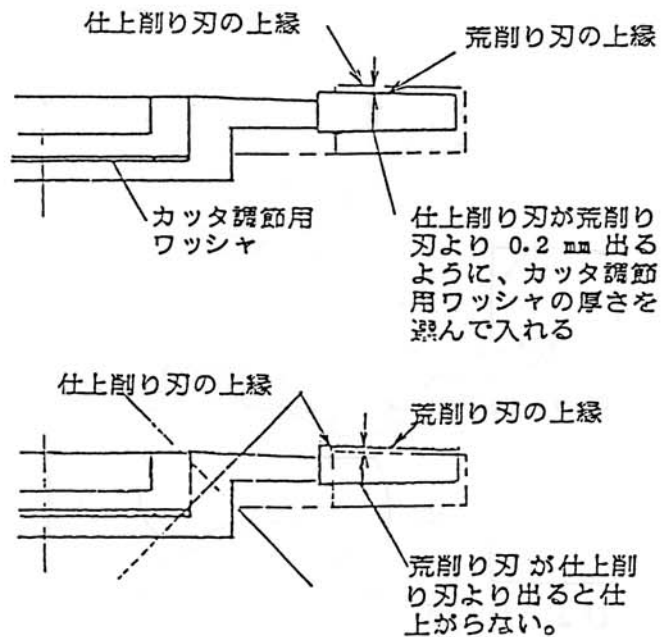


図-9

4 - 1 0 かな刃の取り替えについて

- 切れ味が悪くなったかな刃は予備のかな刃と取り替えてください。付属の六角棒スパナでかな刃押えの取付けねじをゆるめるとかな刃が外れます。予備のかな刃の取付調整方法は
- (1) 高さ方向には、かな刃を調整ねじに当て、付属のドライバで調整ねじを回して、かな刃の上縁が裏刃の上縁から $0.1\text{mm}\sim 0.2\text{mm}$ （左右2枚とも同じ量）出るように、しかも裏刃の上縁に対して傾かないように調整します。
 - (2) 直径方向には、裏刃の外径から $0.1\text{mm}\sim 0.2\text{mm}$ 出るように調整します。（図-11参照）
 - (3) かな刃の位置が決まりましたら再びかな刃押えの取付ねじを締め付けてください。
- ※ かな刃押えの取り付けネジは、ゆるむとかな刃が飛び出す場合があります。もう一度締め付けを確認して、機械に組み込んでください。

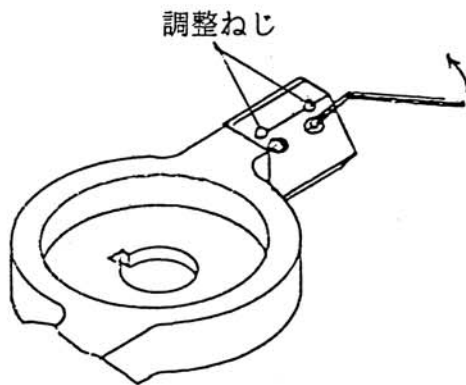
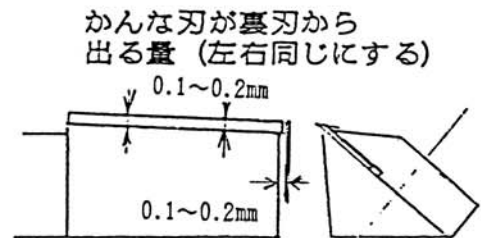


図-10



(図は誇張して書いてあります)

図-11